

雲仙普賢岳の 火砕流

1991年5月20日、雲仙普賢岳で溶岩の噴出が確認され、同24日、初めて火砕流が起きた。それからもう2年以上たつが、まだ火砕流は継続して発生している。今まで経験したことのない火砕流は地元住民に大きな被害をもたらしているが、また子供達に自然を学ばせる格好の教材を提供している。(島原市立第3小学校 山田スミコ)



1.1991年6月3日の大規模な火砕流。午後4時14分頃撮影。(本文参照)



2.1991年9月6日夜9時過ぎに見えた閃光。火砕流に伴った噴煙中では、しばしば雷が発生するが、このとき見えた稲妻は長く伸びず、小さな塊であった。(本文参照)



3. (左)

運動会開催中に起きた火砕流。1992年9月27日、午前9時20分頃、島原市立第3小学校より撮影。雲仙岳測候所によれば、このときの火砕流と思われる震動波形の継続時間は160秒であった。(本文参照)

4. (下)

溶岩の崩落、小規模な火砕流か？ 1992年11月23日、第2展望台より撮影。(本文参照)

